

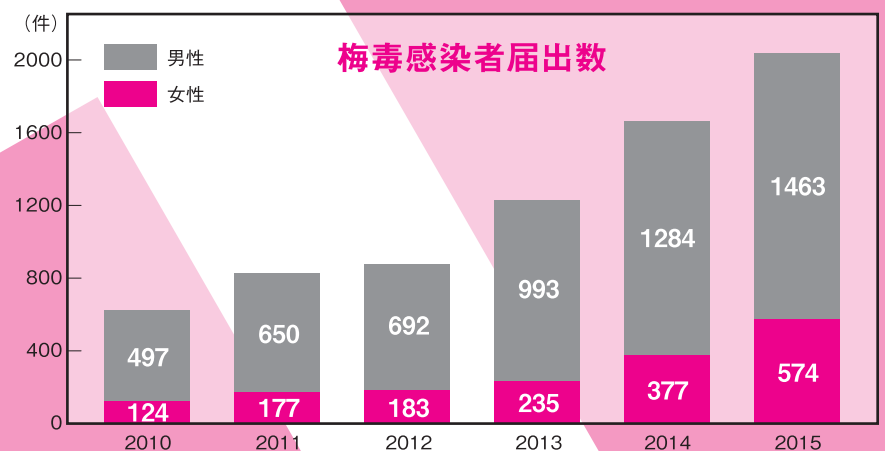
女子の梅毒 増加中!

梅毒とは・・・

梅毒は、感染している人との性的な接触(粘膜や皮膚と直接接触すること)などによってうつる感染症です。陰部に潰瘍ができたり、リンパ節の腫れ、全身の発しんなどの症状を呈します。進行すると、脳や心臓にも症状がでることがあります。梅毒に罹患しているひとが妊娠すると、早産や死産になったり、胎児に重篤な異常をきたすことがあります。

女性の梅毒感染者届出数は、
2010年の124例から
2015年の574例へと、
5年間で約5倍に増えました。

2010～2013年は感染症発生動向調査事業年報による。
2014年、2015年は2015年10月28日時点集計値(暫定値)
2015年は2015年第1週から第43週(2014年12月29日～2015年10月25日)までの報告を対象

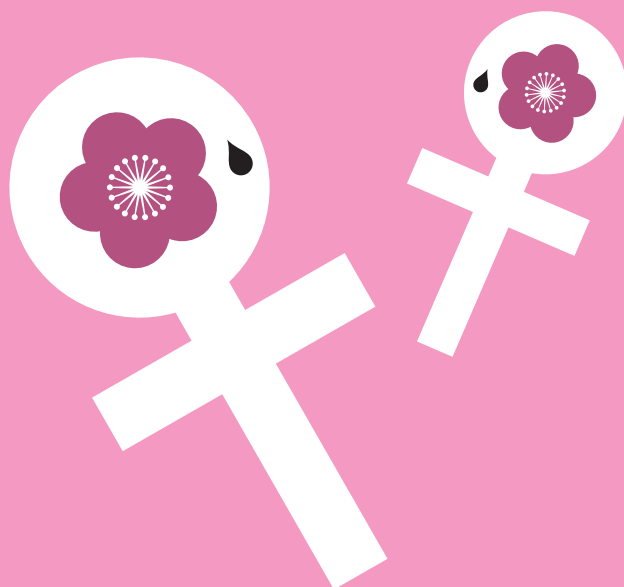


コンドームの適切な使用によりリスクを減らすことができます。

オーラルセックスやアナルセックスでも感染します。一度治っても再び感染することがあるので、パートナーと一緒に検査・治療しましょう。



梅毒以外にも 女性を悩ます 主な性感染症と その症状。



性感染症の症状はいろいろで、中には目立った自覚症状がないものもあります。

性器クラミジア感染症・ 淋菌感染症

女性の場合は、多くの場合、症状がみられないか、軽い症状(おりものの増加や下腹部の痛み、性交時の痛みなど)にとどまります。進行すると、卵巣やおなかの中、肝臓の周りに膿を作り、重症化することがあります。不妊や子宮外妊娠の原因となったり、慢性的な骨盤の痛みが残ることがあります。性器クラミジア感染症は最も女性患者数の多い性感染症です。

性器ヘルペス

大陰唇や小陰唇から、膣前庭部、会陰部にかけて水疱や潰瘍ができます。太もものリンパ節の腫れや痛みが生じ、痛みが広がることもあります。

HIV/エイズ

HIVに感染すると、初期症状にかぜのような症状が見られることがあります。その後、自覚症状のないまま徐々に免疫力が低下し、本来なら自分の力で抑えることのできる病気(日和見感染)などを発症します。お母さんから赤ちゃんへ感染(妊娠時、出産時、授乳時)する可能性があります。適切な治療により感染を防ぐことも可能です。HIV感染は検査でしかわかりません。

ヒトパピローマウイルス 感染症

性経験のある女性の半数以上が一度は感染するとされています。症状はほとんどありません。様々なタイプがあり、一部のウイルスは、性器にいぼができる尖圭コンジローマの原因となったり、子宮頸がんや膣がんなどの原因となったりします。

コンドームの適切な使用によりリスクを減らすことができます。

オーラルセックスやアナルセックスでも感染します。一度治っても再び感染することがあるので、パートナーと一緒に検査・治療しましょう。

●性感染症に関する情報はこちらをご覧ください。

厚生労働省 性感染症



バーコード読み取り機能付き携帯電話もしくはスマートフォンでご利用になれます。

